

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700222		
法人名	有限会社スリーエス・いわた		
事業所名	グループホーム 苦楽舎		
所在地	磐田市 匂坂上234-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276700222&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 モア設備設計事務所		
所在地	静岡市葵区昭府1丁目8-35 ツキ子商事ビル4F		
訪問調査日	1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の事を第一に考えホームの理念である「穏やかで心休まる生活の提供・笑いとお楽しみのある生活・ゆっくりリズムの自分らしい生活」をもっとうに支援させていただいているホールは日当たり・風とうし良く揺ったりとしている。一人1人の空間もありゆっくり寛げる・ホームが田園地帯にあり、散歩などゆっくり出来て季節ごとの花などが1年中楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の理念を基に、利用者がホームの中で自宅以上に「自分の家」として、ゆったりとしたリズムの中で生活されている。また、部屋の入り口には手書きの似顔絵があり、ホーム内が暖かな雰囲気にも包まれている。
面会票による家族から施設への意見が伝えやすい仕組み等の独自の取組みにおいて、家族との信頼関係が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時及び休憩時間などに自然に目に留まる位置にかかげ実践につなげるよう努力している	理念を玄関及び職員室に掲示してあるの で、常に職員が見ることが出来、意識付けが 出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	自治会に加入し回覧板を回して頂いてい る。	地域の清掃活動等に参加している。また、近 くにある小学校の児童達ともお互いに訪問し 合うなどの交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かして いる	ホームの現状を報告したり、市の職員及び 包括の職員より情報を提供し手もらっている。 地域の役員さんにも情報を頂き、地域 の行事などに参加させて頂く。	2ヶ月に1回、定期的実施されている。毎 回市担当者や地域包括支援センター職員が 参加し、サービス向上のため、活発な意見交 換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主権の事業者会議に出席し、情報収集 に努めている	事業所の運営やサービスのあり方など、常 に連絡を取り合い、連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含め て身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員が一体となり身体拘束をし ないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則として行っていない。やむを 得ない場合においては、家族と良く話し合 い、了解の基で必要最小限の範囲で短時間 行っている。今後の取組みについては拘束 しない方法を検討中。	身体拘束の排除の為、取組みに関す るマニュアルをホームの現状に合せ て整備し、「拘束ゼロ宣言」をすること で職員の意識がより向上していくこと を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の申し込み時に、説明をし十分な理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接聞いたり、面会票に書いて頂き反映する	家族が意見等を遠慮なく伝えられる様に、面談の他に面会時に提出する面会票を利用してもらっている。面会票は各部屋におかれており、職員に気兼ねなく記入できるよう配慮されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者が常に職員と何でも話せる場がある	管理者は職員から声をかけられた時、その場で相談や意見を受けるようにしている。管理者は職名ではなく、名字で呼ぶように職員に伝え、職制による垣根を低くし、気軽に声をかけられる環境をつくっている。	職員会議等管理者・職員を交えた意見交換会や研修が定期的開催されることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康管理及び就業範囲を把握静岡県気持ちよく働けるよう心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会議などで情報交換に勤めながら向上に勤めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人の不安などを聞きながらなじめる環境・関係作りに勤めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階で、家族の要望・不安等話し合いながら関係づくりに勤めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の必要としているサービスを見極めた対応に勤めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩・パズル・ゲームなど一緒にしながら暮らしを共にする関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の希望を聞きながら共に本人を支えていく関係になるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は居室にて、外出の自由化	馴染みの人に会いたい場合、その人に連絡を取って面会が出来るよう支援している。また馴染みの場所への参加や外出は家族の協力のもとに行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えなどにより一日を楽しく過ごせるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などをした場合には、お見舞いにゆき、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に声かけしその日の以降や希望を聞き取るようにしている。	利用者とも気軽に話し合える信頼関係が出来ている。またその日の様子を見ながら、声掛けをしたりして意向の把握に務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人1人に似合った過ごし方、心身状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議により利用者さんの様子や介助の仕方などを検討し介護計画書作成をしている	家族との面会時にサービス担当者会議を開催し、現状に即したプランを作成している。作成後は家族に説明し、了承を得ている。	サービス担当者会議に、より家族が参加しやすい様、計画作成担当者を中心に環境を整える事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌により職員全員が分かるようにし日々のケアに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期健診及び半年に一回ぐらいの割合で血液検査などにより健康管理に心掛けている	入居時に今後のかかりつけ医について本人・家族の意向を確認し、その結果、希望により協力医をかかりつけ医にする場合が多い。定期受診に関しては職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会にこまめに行き病院関係者との情報交換や相談に勤めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時家族の意向を聞いている	現在の所、看取りについては体制的に不安があり、方針を決めかねている。職員にも看取りに対する不安感が少なからずある。今後は看取りに付いての方針について検討していく予定。	早期に方針の作成と、職員の不安を解消するため研修や勉強会の実施を行って行って欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム前後の地域の方に緊急時には協力をお願いしてある	防災訓練は定期的実施されている。地域との災害時の協力体制については、運営推進会議の中でも何回か話し合いが行われているが、結論には至っていない。	地域との協力体制については、早めにまとめる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室にトイレ及び洗面があり、プライバシーに配慮しながら排泄の支援が出来る。	排泄時のプライバシーに配慮し、各部屋にトイレを設置している。また部屋の入り口に暖簾をかけ、ドアを開け放した開放的な中でもプライバシーが守られるよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の生活の中でなるべく本人の希望を取り入れるよう支援する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたペースを大事にし、食事時間なども十分取っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が動きやすい、楽な服装になるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が作るので一人1人が摂取しやすいよう調理する。食材についても地元産などを使用する職員も利用者と同じものを同じところで食事を取るたまには外食にも出かけている	一人一人の食事に対する特徴を的確に把握しており、それに基づいた食事形態で提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人1人の身体状況を把握し食事の量などに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕のケア口腔ケアは必ずする自力で出来る人には見守り助言している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツの人にも日中はリハパンにし時間や意思表示によりトイレ誘導をしている	日中は利用者の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っている。また失禁のある人に対しては、排泄習慣を忘れないよう、時間を決めてのトイレ誘導も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や軽い運動などにより個々に応じた対応に似心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、一日おきの入浴になっているが入浴支援は毎日行っている希望があれば毎日でも対応している。車椅子の方にはリフト浴対応をしている	利用者の「一番風呂に入りたい」「夕食後に入りたい」等の希望に沿って入浴を実施している。車椅子利用の人も浴槽内で暖まってもらえるよう、リフトを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人1人似合った休息及び安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理とし内服時に出し確認すると共に変化の確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズル・手先作業などや皆で参加できるしりとりや体操などを職員も一緒に名って楽しむ散歩なども頻繁に行くよう心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周りの散歩、春秋のご家族を誘っての遠足・外食など戸外に出かける機会を作っている	冬の間は外出の機会が少ないが、3月頃になれば近隣に色々な花が咲くので、毎日欠かさずに散歩に出かけることを利用者は楽しみにしている。また利用者個々の外出希望についても、家族の協力を得ながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出などで買い物をする		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事由に電話・手紙はやってもらうよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	娯楽室権食堂(ホール)広くゆったりとしたスペースがあり、明るく日当たり良く、穏やかな時間が持てる	部屋の入り口に似顔絵を貼ることで暖かい雰囲気を出している。行事の写真や季節のディスプレイがあり、季節感を感じることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや畳など利用者及び家族の要望を取り入れ対応している。使い慣れた家具及び仏壇などを持ち込み本人が居心地良く暮らせるよう工夫している	本人の使い慣れた家具を置いたり、部屋の中は希望のレイアウトにしている。また、利用者が安心して移動できる空間が持てる様配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を活かし安全・安心して自立した生活が送れるよう工夫している		